

<p>駅西ブロック 第36回ブロック部会 議事要旨</p>	
開催日時	平成30年3月19日（月）午後8時～9時30分
開催場所	十条台ふれあい館 第一ホール
出席者	<p>【部会役員】阿部部会長（十条仲原一丁目町会長）、石原副部会長（十条富士見銀座商店街理事長）、染谷役員（上十条二丁目町会長）</p> <p>【事務局】岩本十条まちづくり担当課長、徳田、井越、濱崎、鈴木、小栗 コンサルタント（まちづくり研究所）：川田、藤巻、小池</p> <p>【オブザーバー】野口区議会議員</p> <p>十条駅西口地区市街地再開発組合事務局：鈴木、菊池、小笠原 株式会社トーニチコンサルタント：岡田、望月、河合、本村 公益財団法人東京都都市づくり公社：柏木、清水</p>
参加者	4名（部会役員を除く）
議題等	<p>議題</p> <p>○未来の十条駅前広場について</p> <p>報告事項</p> <p>○JR赤羽線（十条駅付近）連続立体交差事業および関連する道路事業の測量等説明会の実施について</p>
	

議事要旨

----- 駅西ブロック部会 部会長あいさつ -----

本日はお忙しいところ、ご参加いただきありがとうございます。会場が十条駅から遠いため、非常に参加者が少ないですが、集まった人で有意義な議論ができればと思います。本日は、前回の部会に引き続き、十条駅前広場についてグループ形式で意見交換を行います。十条駅西口地区市街地再開発組合の方に来て頂いておりますので、地元の皆様が十条というまちをどのようなまちにしていきたいか、地元の皆様ならではの意見を頂ければと思います。そのあと、事務局からは、「JR赤羽線（十条駅付近）連続立体交差事業および関連する道路事業の測量等説明会の実施について」の報告事項があります。自分が言ったことが全てではなく、色々な考え方を持つ人がいることをご理解していただき、限られた時間ではありますが、スムーズな進行にご協力をお願いします。

○ 議 題

----- 未来の十条駅前広場について -----

■まちづくり研究所から、第35回ブロック部会での意見交換で頂いた主な意見を説明した。

■トーチコンサルタントから十条駅前広場について、以下の点を説明した。

- ・現況の広場にあるもの
- ・現状の課題と印象
- ・駅前広場に必要な機能の確認
- ・駅前広場の景観形成のポイント
- ・駅前広場のデザイン方針
- ・駅前広場のデザインテーマと空間のまとまり
- ・駅前広場の機能的ゾーニング
- ・駅前広場のイメージ及び骨格配置
- ・歩道の舗装と街路樹の種類やイメージについて

■意見交換

- ・十条駅の広場を開拓するという発想で、新しい駅前広場にいくらかけるのか知りたい。
- ・駐輪場は地下に作るため、その工事にかかる費用は高くなると思う。
- ・周辺のまちから浮いてしまうような駅前広場には疑問を感じる。20m道路が入ってきてタクシーや車が多く入ってくるような都市型の広場ではなく、周辺のまちと雰囲気繋がるような一体的で調和の取れた駅前広場を作るべきだと思う。現在の駅前広場は、周辺のまちと馴染んでおり、生活と一体となった空間になっている。
- ・新しい広場を作ることで人が集まってくる、そうすると商店街にも人が流れていく。生活空間だけでなく、自然と広場から延長する商店街に結びついていく、そういう広場作りのきっかけになればよいと思う。例えば十条駅は学生が多く利用するが、単に乗り降りのためだけの駅前ではなく、イベントなどで学生たちも色々な形で参加できる。その賑わいは商店街にも波及していくと思う。広場作り

よって十条のまち全体が変わっていくのではないかと思う。

- ・衰退しているまちに、新しく駅前広場を作ることは考えられるが、それが十条に当てはまるのだろうか。十条は既に住みやすく熟しているまちなので、それを変えていくということはリスクを伴う面もあると思う。
- ・整備をするかしないかという議論は、別のフィールドでやるべきと思う。やるという前提で、建設的な議論をして、何をすればよいのか意見を積んでおくしかない。
- ・最初に道路境界線やゾーニングを示されて、気持ちが折れてしまった。メインの顔の部分、生活空間の部分であるロータリー内が、にぎわいのコア（非日常）の場所と決められてしまった。子どもの頃は、駅前広場の中央に噴水があって遊ぶことができた。現在はただのオブジェの空間になっていて、大変寂しくつまらない場所になってしまった。
- ・駅前広場が新しくできるのなら、ここをもう少しオープンな空間にしてほしいという気持ちがあった。しかし、本日見せられたゾーニングではにぎわいのコア（非日常）の空間になっており、夏祭り等のイベントの時にしか使えない上に、普段はタクシーのモータープールになると言われてしまい残念だ。
- ・十条は商店街等をまち歩きをして散策するような、歩行者メインのまちだ。一方で、今回提示された駅前広場の配置図は、車優先のまちである。前回の意見交換会では、歩行者空間と車道空間を立体交差させるような案も考えられると誰かが言っていたので、そういう検討ができるなら前向きになれる。しかし、今回概ね決まっているものとして、駅前広場の配置図を出されてしまった。
- ・舗装や街路樹の話よりも、まずは明確にテーマを決めてほしい。舗装や街路樹の話は最後に決める話で、まずは駅前広場にバス等の車両を入れるのか、タクシー乗り場を作るのか、そういったところを先に決めていくべきだ。
- ・突然、駅前広場の計画を決められたような印象を受ける。前回の意見交換では、大まかな利用方法等について話し合っていたのに、今回大筋の計画が決まっていて驚いている。一体いつ誰がどのように決めてしまったのか、疑問だ。
- ・夏祭りやイルミネーション等の既存イベントは行いたいだが、それらは年に一回のことであって、それだけにとらわれてしまうと、全体的な考え方が崩れてしまうと思う。まず、駅前広場を歩行者優先にするのか、車両優先にするのか、そこから決めるべきだと思う。
- ・十条にとっての生命線は、十条駅から商店街へ2方向から向かえる歩道空間にある。今回の計画では、その生命線が10mの道路によって分断されて大きな構造変化が生まれてしまっている。十条銀座商店街というメインの場所へ10m道路を歩行者に2回横断させるというアクセスになっている。商店街がメインのまちであるならば、本来はもう少し工夫があるべきではないかと思う。ここに何の知恵も工夫もない。これは再開発ビルとの協議でも商店街とのアクセスの話は以前から出ている。このままでは双方の交流ができないという意見に対して、考えますと言われて10年も経っている。
- ・今回の駅前広場の計画は、悪い所は変えずに良いところは潰すという計画になってしまっている。
- ・駅前広場は交通の拠点であるため、歩行者の動線を第一に考えるべきだと思う。商店街と十条駅との

接続は重要視するべきだし、少なくとも今よりはよくしてほしい。

- ・今後駅が高架化され40階の再開発ビルが建つ以上、暗く寒い駅前になるので、樹木は育たない。
- ・暗くて寒い駅前になるのは仕方ないとしても、それを前提として良い駅前にする議論をしていかななくてはならない。従って緑を植えることを前提にした広場づくりは机上の空論と思う。
- ・高層ビルが建つとビル風が起きる。ビル風のことを考えると、ビルに囲まれた場所を広場にするのが心配だ。風が強い場所に木を植えるため、樹木は常緑樹しかありえないと思う。
- ・駅前ロータリーの位置が、商店街の入り口に当たらないようにできれば良いと思う。駅の目の前にロータリーがきてしまうことで、今のまちが失うものは大きい。
- ・他の駅前再開発ビルが建つ広場をみれば分かるが、よほど頑張らないと、寂れたコアになる。どこもにぎわいをテーマにしているが、実際は広場ができたからといって人が増えるわけではない。今まで小さなところにまとまっていたものが、いきなりだだっ広い空間ができて非常に寂しいまちになる。
- ・赤羽駅は西口よりもスズラン通りのある東口の方が人が少したむろしていてにぎわいを感じる。
- ・駅の改札はここでよいのか。JRとの関係は非常に重要になってくる。立体構想になると東口とコンコースでつながるだろう。
- ・その話は以前から家政大学や自衛隊関係者からは、近いところにある南に改札口がほしいと意見が出ていた。商店街としては人の流れが変わってくるため反対で、今の位置に改札口は残してほしい。
- ・駅が立体化すると出口が高くなるため、もしかしたら十条駅から商店街へ直接向かえる立体歩道橋を作れる話もJRとできるかもしれない。十条駅の乗降口を考えることは結果的に駅前広場の使い方に繋がる。にぎわいは、流れによって変わってくる。
- ・十条駅が決まらない限り、駅前広場も決めることができないと思う。十条駅と駅前広場が出来上がった時に、全く構造が違うものになると、かえって使い勝手が悪いものになってしまう。
- ・まちづくりの進め方が不明確で、再開発ビル、駅前広場、JR十条駅など、関係する機関と交渉するべきだとは思いますが、誰がどこでどのように取りまとめるのか分からない。とりまとめる窓口ないので、意見を出しても意味がなくなってしまう。本来は区がやるべきと思うが、区としては都の事業、JRの事業という話になってしまう。
- ・まとめるのは十条まちづくり担当課なので、そこに出して、そこから東京都なり関係機関へ持っていけばよい。
- ・協議会が区と連名で「JRに申し入れする」、「再開発組合へ要望する」、など形作って一歩ずつ積み上げていかないと、ここでやることの意味がなくなってしまう。
- ・十条の顔としての駅前は、単なるオブジェではなく、実際の人の顔がまちの顔になるべきだ。まずは、どんな人の顔があふれるまちが良いのかを考えどこかでまとめあげるべきだ。それが未来に向けてのメッセージになる。商店街も含めて高齢化に抗わないとならない。十条に住みたいと思える人をどれだけ増やしていけるか周知していかないとならない。
- ・子ども連れが訪れるまち、そのシンボルとしての十条駅前広場があれば、おもてなしの空間が必要だ。子どもも楽しめる、ちょっとした工夫が日常の空間に仕掛けられるのであれば、家政大と一緒に

デザインなどを考えることもできる。再開発ビルの施設にも保育所や公共施設を設けるなど、駅前広場の舗装も子どもが楽しめる工夫を施すとか、駅の構造等もそれに沿った形にしていく必要があると思う。全てをテーマに沿わせる必要は無いが、一つのテーマに向けて十条を考えて行くことが一番最初なのではないかと思う。

- ・この少ない人数でやっても仕方ないので、各町会、商店街の声掛けで意見をもみ合い、まちの顔としての駅前について意見を募るべきだ。皆さん忙しいので1年スパンで各会で出し合ってもらうように、区やコンサルにサポートしてもらえるとよい。
- ・これまでの意見が何らかの形で事業に反映されなければ、ブロック部会が存在する意味が無いと思う。

○報告事項

—JR赤羽線（十条駅付近）連続立体交差事業および関連する道路事業の測量等説明会の実施について—
配布資料及びスライドに沿って、区よりJR赤羽線（十条駅付近）連続立体交差事業および関連する道路事業の測量等説明会の実施について報告した。

- ・JR赤羽線（十条駅付近）連続立体交差事業および鉄道附属街路事業 測量説明会
平成30年2月2日（金） 午後7時00分～8時30分 会場 王子第五小学校 参加者 146名
平成30年2月3日（土） 午後2時00分～3時30分 会場 荒川小学校 参加者 160名
- ・補助85号線事業 測量説明会
平成30年2月23日（金） 午後7時00分～8時30分 会場 王子第五小学校 参加者 106名
平成30年2月24日（土） 午後2時00分～3時30分 会場 王子第五小学校 参加者 89名
- ・現況測量を実施する範囲は、事業範囲から約30m

—前回ブロック部会で受けた質問に対する回答—

・都市計画変更後の駅前広場面積は、導入施設の検討を踏まえ、既定都市計画と同様に4,360㎡とする。計算方式は98年式（1998年）と28年式（昭和28年）と2つの方式で計算している。

-----質疑応答 -----

【参加者】具体的に駅の乗降客の算定方式について伺いたい。

【北 区】平成24年10月に都市計画決定されましたが、それ以前の経緯では、将来的な十条駅西口の一
日当たりの乗降人員を47,400人と設定しております。これらは、「98年式」と「28年式」の二つ算定方式を用いて計算しております。「98年式」や「28年式」の詳しい算定方法については、別途個別に対応させていただきます。

【参加者】再開発組合の設立認可取消訴訟において資料を要求して、認可同意書の名簿提出をお願いしたところ、黒塗りの名簿が出された。今後どうするのかを東京都にお願いしている。組合事務所で対応ということになっているが、今どのような状況になっているのかお聞きしたい。2点目に、商業プラン

の計画について、権利者の有志が中心になって検討会を行っていくとのことだが、有志以外の方はどのような形で商業プランに関わっていくのかお聞きしたい。

【北 区】再開発事業に関わる認可をした東京都を被告とした係争については、事務局である区の立場からこの場でお答えできません。再開発の状況については、再開発組合が出しているニュースで示しています。2点目の再開発組合の中で商業部分の検討を進めていることはその通りで、区も権利者の一員です。ある程度まとまった段階で、再開発組合から地域の方々へお話すると思います。

【参加者】再開発組合の方からも直接話を伺いたい。

【再開発組合】訴訟については、東京都を被告として進めている話なので、この場では回答を控えさせていただきます。商業業務床のプランについては、現在有志に呼び掛けて集まっていますが、4月3日には権利者全員に呼び掛けて会を開く予定です。商店街と話せる内容にまでは詰まっていないので、ある程度まとまった段階でご相談させていただきます。

-----閉会：駅西ブロック部会 副部会長あいさつ-----

本日は遅くまで、いろいろなご意見を頂きましてありがとうございます。これからは大勢の方々にご出席して頂き、活発なご意見が出るような会になればと思っております。今後ともご協力をよろしくお願いたします。本日はありがとうございました。

以上